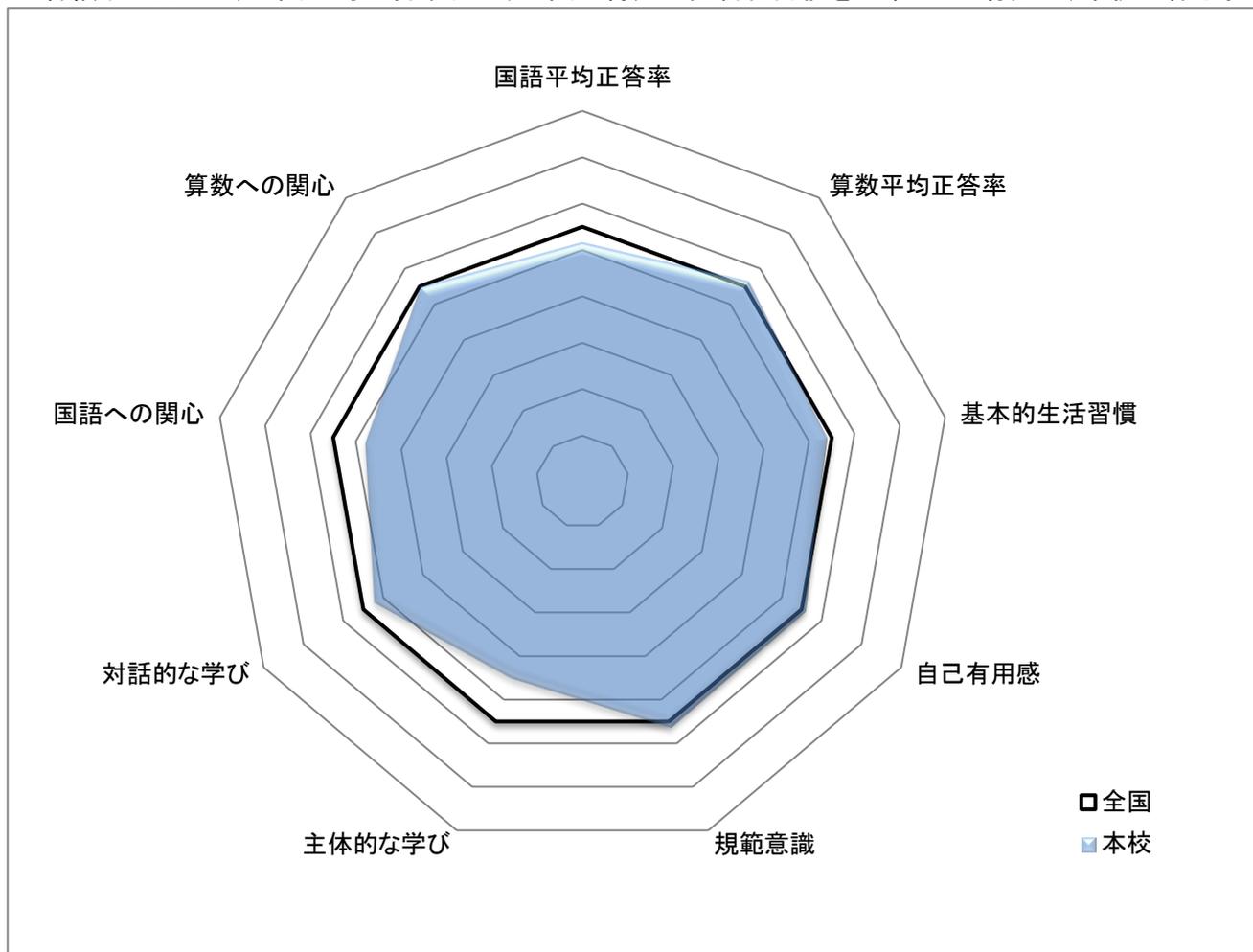


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語・算数】算数は平均正答率が全国を上回っていると同時に関心も高い。逆に、国語の平均正答率・関心ともに下回っており教科への関心の高さが正答率に連動していると思われる。

【学び方等】主体的、対話的な学びは、全国平均に比べ下回っており、「規範意識」「自己有用感」ともに全国平均と比較し、上回る結果となった。特に、主体的な学びは、大きく下回っている。

《授業改善のポイント》

【国語・算数】基礎・基本の定着と併せて、授業の導入や展開で児童の意欲を高める手立てや工夫を研究、共有し、取り入れていく。

【国語】「江戸川区国語授業スタンダード」や「篠二話し合いスタンダード」を活用し、各学年における話し合い活動の目標を示し、児童一人一人の話し合いの力を伸ばし、自分の考えをよりよいものにできるように全校で継続する。また、4年生以上は、週に1回よむYOMUワークにも取り組み、読解力向上を目指す。

【算数】「江戸川区算数授業スタンダード」を活用するとともに、習熟度別少人数指導において、具体物の観察や操作の場面を増やし、算数を学習する意欲を継続させる。また、授業前の基本的練習や東京ベーシックドリル活用期間を中心に、不得意な単元を示し、その問題の復習に集中して取り組ませる。

《チャートの特徴》

【国語】全国67.7% 本校63.0%と、全国平均を下回っている。

【算数】全国63.4% 本校65.0%と、全国平均を上回っている。

【学び方等】「規範意識」「自己有用感」は全国平均を上回っている。一方で主体的・対話的な学び、特に主体的な学びは、大きく下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

ベーシックドリル・全国学力・学習状況調査の結果を面談等の機会を活用し、保護者に伝え、課題を明らかにすることで家庭学習への啓発を行い、児童の家庭学習の習慣が定着するようにする。